

第7回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

会議の名称：第7回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

開催の日時：平成20年8月26日（火） 午後2時30分～4時30分

開催の場所：鳥取県庁 特別会議室

出席者氏名：別紙出席者名簿のとおり

会議の概要：以下のとおり

1. 項目別評価の決定について
2. 全体評価の決定について

委員	委員発言	意見に対する回答、対応
千葉委員長	<p>○資料10に沿って議論していきたい。最後の5段階、10段階評価の際には、委員の総意ということになるが、微妙な話もあるため、ここでは非公開で議論したい。</p> <p>○資料9を見ていただければわかるが、3つの項目に分かれている。この3つの項目の合計について、各項目別にウエイトを皆さんに出してもらっている。私が3.31、谷口委員が3.11、辻井員3.53、中村委員3.55、副井委員3.54で、平均すると3.41となっている。これについて、文言で評価している。</p> <p>○まず「県民に対して…」事項であるが、資料9でいただいた皆さんのコメントを参考にしながら、資料6の各項目別を見ていきながら、評価をした（資料10）。その評価の方法だが、例えば資料6の項目1を見ると、3が4名、4が2名で合計すると3.4で、四捨五入すると3となる。3であれば、計画通り。これが3.5以上あれば、4になるかなというところです。こういった基準をベースに皆さんの意見を入れて作ったという形になる。</p> <p>○各項目別で、非常にアバウトなところもあるが、だいたい3だな、あるいは4だなと判断している。特に比較的ウエイトの大きなところで判断している。トータルの3.41を踏まえた形の記述としている。こちらへん文言も含めてこの総評でよろしいか、委員の皆さんからご意見をいただきたい。</p>	了解（各委員）

千葉委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○「中小企業への…」、「法人の業務運営…」については、特にウエイト付けはないので、この項目毎について、1から5をつけるということになっている。 ○項目別のウエイト評価と今挙げた2つとの比率が1：1となっている。その評価は、ある意味で項目別の評価と2重になる部分もあるが、「中小企業への…」を見ていくと、個別の委員の評価を合計すると委員の評価平均は3.6で4に近い評価になる。全段の項目別と並ぶところがあるが。 ○「法人の…」について、今のところ評価平均は3.4となっているが、資料10のコメントはよろしいか。 	了解。(各委員)
千葉委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○この他皆さんが課題としてあげておられることは、「中期目標・中期計画の…」に入れているので、もう一度、今後の課題として議論していきたい。 ○とりあえず全体の評価は、こういうような総評でまとめている。これに対して、あと項目別、平均値を含めて、最終的な評価をどうするか議論していかないといけないと思う。 	
(5段階評価、10段階評価の決定に係る審議部分は非公開)		
千葉委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○次は、中期目標、中期計画の達成に向けての課題という所をしていきたいと思う。 ○課題等として記載していることの他に、課題等若しくは法人の業務運営のいずれかに置くべきこととして、特許水準、外部資金の確保に関して、もう少し、目標を高めていくという視点から努力しなくてはいけないのではないか。過去の評価委員会、今回の評価においても、繰り返し出てきた意見なので、最終的には、文言を修正して入れたいと委員としてまとめている。その点について、追加する。 	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○県、センターへの通知は、全体評価(資料10)、項目別評価(資料)を使い、委員別の評価については、非公開としてはどうか。 	了解(各委員)
谷口委員	<ul style="list-style-type: none"> ○採点の仕方自己採点に、1、2がないとは反省がないということか。弱かった点はこういうところがあるから、次回は、集中的にやろうよと言うことはあっても決して悪くないと思う。それはそれとして、昼夜がんばったのだ 	

	<p>から3以上が当たり前だとしたらこうなる。人間四六時中それだけ持続できるものなのかな。</p> <p>○一番思うのは、自己満足したらそれ以上のことはやらない。私自身も今回2以下をつけなかったが、それは今回初めてなので、2をつける理由がわからない、わからないからまあ3というのが本音の所。本当にシビアにするときはもっと切り込んでいってやらないと。5段階と言っておきながら、実は、3、4だよということは非常にラフな結果に終わったのかなと思っている。</p>	
谷口委員	<p>○委員会の委員は、毎年変わるのか。</p>	<p>○任期は2年で、今度の12月でちょうど任期になる。(事務局)</p> <p>○評価の継続性を尊重すると、再任も可。そこは知事が判断することとなる。毎回人が変わると、いつも3になってしまう可能性がある。連続性を評価するのであれば、もう一回お願いできないかということで再任の可能性もある。そこは、知事と協議しなければいけない。しっかりチェックして頂いたので、こういう評価項目、こういう手法を全部公開すれば、あまりに3が多いんじゃないかということにはならないのではないかと思う。独法化して、まず、評価システムを作ったところなので、評価して頂けると思う。(事務局)</p>

3. 財務諸表の承認に係る意見聴取について

千葉委員長	<p>○財務諸表に関して、中村委員からの質問がでているので、回答をお願いします。</p>	<p>中村委員からの財務諸表に関する質問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 貸借対照表の中で、資本の部の「損益外減価償却累計額」は、年数が経過するほど、赤字の累積が増えることになるが、経理として問題ないか。 2 貸借対照表の流動資産の「未収入金」の5700万円は、単年で発生したものかあるいは過去からの累計したものか、あるいは回収可能性についてどうか。 3 キャッシュフロー計算書の「利息及び配当金の受取額」は、業務活動に上げるのではなく、財務活動に挙げるものではないのか。 4 注記事項のキャッシュフロー計算書に関する注記で、挙げられている電話加入権6万6千円の積算はどのよ
-------	--	--

		うにしているのか。(事務局)
		<p>○全体については伊木監事に見てもらっており、意見として、間違いのないとして監査報告書をもっている。</p> <p>1について</p> <p>○建物及び付属施設にかかる減価償却については、地方独立行政法人法会計基準上で、この減価に対応すべき収益の獲得が予定されていない資産については、減価償却相当額は、損益計算上の費用には計上せず、利益剰余金を減額するものとするということで、これは、総務省告示に記載がある。従って、ここのマイナス1億6500万円ということで、記載している。</p> <p>○また、考え方として、資産の減価償却部分について、通常は運営費交付金の算定対象にはならず、運営費交付金以外の収益によって充当することを予定していない収益で、その部分をカバーするという様なことを予定していないということで、貸借対照表の資本の部に記載している。資本剰余金、利益剰余金は、元々発生元が違っており、資本剰余金は、建物及び付属設備の減価償却、利益剰余金については、当該年度は1億2800万円は、もともとゼロが予定されているもの。ただ、当期においては、経費の節減等により、剰余金が出たもので、いかにもプラスマイナスしているように見えるが、資本剰余金、利益剰余金は別のものである。</p> <p>2について</p> <p>○未収金については、平成19年度期首では法人スタート時でありゼロだった。期末において、5700万円と多額の未収金が計上されている。これは、5700万円のうち、5312万円は経産省の補助事業「地域企業立地促進等事業費補助金」という人材養成にかかる補助金に年度末において手を挙げ、それに乗れたもの。それが、3月31日現在では払われず、4月になってその補助金が入ってきたということ。内容としては、マイクロSEM、光学特性試験装置に係るもの、人材育成に係るソフト事業にかかるものである。残りは、利用料等の未収金で、</p>

		<p>翌月の月末までには入っている。</p> <p>3について</p> <p>○総務省告示第64の表示区分に記載があり、受取利子、受取配当及び支払利息にかかるキャッシュフローは、いずれも業務活動による区分に記載することとなっている。逆に、財務活動によるキャッシュフローは、増減資による資金の収入支出、短長期の借入金返済による収入支出等の動きを記載することになっている。</p> <p>4について</p> <p>○財務省の路線価で、土地関係以外として、電話加入権の標準価格があり、鳥取県の場合は、平成19年度で、3千円ということで、22回線で、6万6千円になる。20年度は、2千円とどんどん下がっていく状況にある。 (産技センター)</p>
千葉委員	<p>○監査で既に承認されてはいるが、ここでいや承認しかねるという意見があれば、評価委員会として出さないとはいけませんが、その点についてはいかがか。特に意見がなければ、意見なしとしてよろしいかと思う。</p>	意見なし。(各委員)

4. 中期計画に定める用途に充てられる剰余金の額の承認に係る意見聴取について

千葉委員	<p>○知事が承認するに当たり、何か委員会から意見があればということだが、この点に関してどうか。評価委員会として意見がなければ、意見なしとするが。</p>	意見なし。(各委員)
------	---	------------

5. その他

千葉委員	<p>○中村委員から、評価の基準に関して、全体評価の中で、項目別のウエイトが1、その他のウエイトが1で今年度は評価したが、中期計画の最終年度になると、項目別ウエイトが0.25で、その他のウエイトが0.75になるが、それでいいのだろうか。</p> <p>○今まで評価委員会としては、項目別のウエイト付けに関して、非常に大きなウエイトをかけて検討してきた。それが、中期計画が進むに従って、どんどんウエイトが下がっていくということに関していささか疑問に思うという意見があった。</p> <p>○これに関して、来年度以降の評価方法</p>	
------	---	--

	の中で、もう一度検討してみようと整理している。こういう意見があったと言うことをお伝えする。	
--	---	--

第7回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名	備考
委員長	千葉 雄二	財団法人とっとり政策総合研究センター	調査研究ディレクター	
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長	
委員	辻 智子	日本水産株式会社	顧問	
委員	中村 宗和	国立大学法人鳥取大学	名誉教授	欠席
委員	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長補佐	

【地方独立行政法人鳥取県産業技術センター】

氏名	役職名	備考
徳村 純一郎	企画管理部長	
門脇 互	企画管理部企画室長	
玉井 博康	企画管理部企画室企画員	

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名	
岡村 整裕	商工労働部産業振興戦略総室長	
野口 誠	商工労働部産業振興戦略総室産学金官連携チーム長	
小谷 博之	商工労働部産業振興戦略総室産学金官連携チーム研究開発担当副主幹	